

令和6年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 数学科

改善の重点

- ① 単元で育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、資質・能力を育成するための数学的活動を位置付けた単元を構想すること。なお、本時の授業においては、低学力層の生徒に確実に資質・能力を育成するため、授業中の教師の見取りを行い、適切な手立てを講じること。
- ② 単元における評価方法や評価場面を工夫するとともに、実際の学習活動を踏まえ、「Bと判断する状況」の例及び「Cと判断する状況への手立て」の例を想定すること。

1 設定理由

中学校学習指導要領解説数学編第4章「指導計画の作成と内容の取扱い」において、「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、数学的活動を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。」と示されている。そこで、単元の構想に当たっては「日常生活や社会の事象を数理的に捉え、得られた結果の意味を考察する過程」と「数学の事象から問題を見だし、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する過程」の2つの過程が相互に関わり合う展開を設定することが大切となる。

数学的活動は、基本的に問題解決の形で行われる。その過程では、生徒が見通しをもって活動に取り組めるように配慮すること、生徒が取り組む問題については、生徒自ら問題を見いだしたり、その問題から導かれる結果を予想したりする機会を設けることが大切である。また、その解決の過程では、問題を解決するために既習の何を用いてどのように表したり処理したりする必要があるのかについて生徒が構想する場面を設けることが重要である。したがって、生徒の学びの深まりをつくりだすためには、数学的に考える資質・能力を明確にした単元及び授業を構想することが重要となる。

学習評価については、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、評価の場面や方法を工夫して、生徒の学習過程や成果を評価すること、教師の指導改善につなげること等が必要である。また、実際の学習活動を踏まえ、「Bと判断する状況」の例及び「Cと判断する状況への手立て」の例を想定し実践する中で、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を進め、数学的に考える資質・能力を、生徒一人一人に育成していくことが大切である。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ①単元など内容や時間のまとまりの中で生徒の学習状況を適切に評価できるよう、評価場面や評価規準及び評価方法等を記載した指導と評価計画を作成すること。
- ②学習指導案に「予想される『努力を要する状況』の生徒への手立て」を記載すること。

(2) 参考とすべき資料

- ①「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ②全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例（国立教育政策研究所）
- ③義務教育課HP「早わかり！単元計画の作成手順」
- ④義務教育課HP「算数・数学の学習で説明する力を伸ばす基本形」